

## ◆非食用植物油推進協議会総会

五月二十二日、佐藤商事(株)会議室にて非食用植物油推進協議会総会を開催した。当協議会は、バイオ燃料改質装置「エコプロ」と非食用植物油ジャトロファの普及を目指している。エコプロは、(株)アンクスと神戸大が産学共同で開発したもので、植物油や廃食用油などを高速回転するローターで攪拌し、燃料化する、画期的な特許で新案されている。



当協議会の名誉会長に就任した佐藤商事(株)・村田和夫代表取締役社長は、「環境社会に向けて石油代替燃料が必要。ジャトロファをエネルギーの地産地消として推

進、国の為になればと参加させて頂いた。」と経緯を説明した。佐藤商事(株)は、「エコプロ」の販売のほか、農園の開拓をはじめ、ジャトロファの普及拡大に注力。種子の搾油機や絞り粕をペレット化する造粒機も開発したいと発表した。

総会ではほかに、ジャトロファの国内で初めて栽培に成功した八丈島町や長崎市、沖縄県での経過を報告。二度目の冬を越した八丈島町の伊勢崎副議長は昨年、漁船による走行テストを実施して、「ジャトロファ油の可能性を確信した」と話した。森幸雄長崎市議会議員は、耕作放棄地の対策としてジャトロファが期待されており、エコタウン構想の廃食油の利用とともに新たな取り組みとして注目と報告した。神戸大学大学院の橋本教授は、ジャトロファ油の燃焼について報告。「エコプロ」で改質した「エコール」は粘性やガム質が含まれる点で高速回転の自動車ディー

ゼルエンジンに向かないものの、低速回転の漁船や農業トラクターエンジン、重機、ボイラー等の利用に期待できるとしている。



## ◆第五回マニラエコプロダクツ国際展



三月十九日から四日間、アジア生産性機構等共催によるフィリピンのマニラコンベンションセンターにて、開催された。初の海外展示として佐藤商事(株)はエコプロ

を持ち込み出展した。日本企業三六社を含む過去最高の一二八社・団体が出展、入場者数八万人を超えた。会場には、アヨロ大統領、ラモス元大統領夫妻も視察された。来年は、インドネシア、ジャカルタにて開催される。



## ◆NEW環境展に出展

五月二十六日から四日間、東京ビックサイトで行なわれたNEW環境展は累計入場者一七万人を集めた。当初、出展数が昨年の三割減となり、入場者数の減少を危惧したが、来場者の環境に対する関心は高かった。佐藤商事(株)のブースにて設置した植物油改質機エコプロは、従来のメチルエステル

化法と異なり、触媒を使用せず副産物のグリセリンも発生しないことから、反響も大きく、説明を求められるお客様も多かった。しばらくの間は、新規顧客への説明や訪問に追われそうだ。



## ◆補助事業採択次ぐ

当協議会では、これまで各地でのジャトロファ栽培事業・バイオ燃料活用事業等への支援の一環として国の補助事業への申請を行ってきた。この度そのうちの二つの事業が採択された。

①なでしこふあみりー…NE DO「平成21年度新エネルギー等非営利活動促進事業」  
 ②八丈町…経済産業省「平成21年度バイオマス等未活用エネルギー事業調査」